

当院で診療をお受けになる皆様

消化器糖尿病内科
副院長 堀川 洋平

当科では、患者さんの診療データを用いて、今後の診療の発展につながる多くの研究（臨床研究）を行っています。今後、以下の研究につき、当科の医師全員で取り組みますのでご連絡申し上げます。

特殊な検査や治療は行わず、通常診療から得られた身体情報、検査、および治療データを用いて検討を行いますが、個人が特定されるような情報は含まずに行い、個人への不利益並びに危険性は一切ありませんのでご安心ください。

しかし、研究にご賛同頂けない場合には、担当医師までご連絡ください。また、一旦同意されても、いつでも取り消すことができます。その場合にも、担当医師までご連絡ください。既に匿名化されている場合や、論文として発表された場合には、情報を破棄できないこともありますのでご了承ください。

記

1. 研究課題

ヘリコバクターピロリ除菌後発見胃癌の内視鏡及び組織学的特徴

2. 担当者

消化器糖尿病内科医師

3. 対象

2015年1月から2020年6月までに、当科で治療を施行した表層型胃腫瘍384症例の診療データ

4. 概要

2013年にヘリコバクターピロリ感染胃炎に対する除菌療法が保険適応となり、ヘリコバクターピロリ除菌後胃というカテゴリーが拡大した結果、除菌後発見胃癌に遭遇する機会が増加しています。除菌後発見胃癌は胃炎に類似し鑑別診断に悩む症例が多く含まれますが、内視鏡及び組織学的特徴に統一された見解は得られていません。そこで、当院で内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を施行した症例について本検討を行います。

5. 医学倫理的配慮

1) 対象とする個人の権利擁護

ヘルシンキ宣言の順守および「人を対象とする医学研究に関する倫理方針」に従う。

2) 対象となる者に理解を求め同意を得る方法

本研究は、過去の通常診療で得られた情報を使用する後向き臨床研究であるため、

あらかじめ情報を通知・公開し研究対象者等が拒否できる機会を保障する方法
(本書式；オプトアウト)を行う。

- 3) 行う事によって生ずる個人への不利益並びに危険性と医学上の貢献の予測
個人への不利益はありません。